

認知症に関する作業療法 教育の効果の検証について

国際医療福祉大学 保健医療学部 作業療法学科

関 優樹

背景

現在、65歳以上高齢者の約4人に一人が認知症の人または予備群と言われ、更に増加することが見込まれる中で、認知症に対する作業療法のニーズが高まっている。

本学作業療法学科では、「認知症作業療法特論」の講義を新設するなど、講義および臨床実習において認知症に関する作業療法教育の充実を図っている。

認知症に関する作業療法教育において、更なる教育内容の充実を図るために、教育効果の検証が必要である。

目的

本研究では臨床実習が作業療法学科学生への「認知症の人に対する態度」に及ぼす効果について示唆を得ることを目的とする。

方法①

対象

本学作業療法学科3年生26名（男性6名、女性20名）

臨床実習

対象学生は、平成29年5月22日から6月9日の各金曜の3日間、介護老人保健施設または介護老人福祉施設で実習を行った。

調査方法

調査には、金ら(2011)によって開発された質問紙「認知症の人に対する態度尺度」を使用した。

質問紙への回答は自記式とし、各質問に対する回答は、「全く思わない」「あまり思わない」「ややそう思う」「そう思う」の4件法とした。

方法②

調査時期

本調査は臨床実習開始4日前と実習終了日に実施した。

分析方法

逆転項目である否定的な態度の項目の処理を行い、各項目の回答結果が肯定的であるほど点数が高くなるよう、1点から4点を付与し、全15項目の合計得点を求めた。

統計学的検討は、Wilcoxonの符号付き順位検定を用いて、実習前と実習後の得点を比較した。統計処理にはIBM SPSS Statistics Ver.23.0 for Windowsを使用し、有意水準は5%とした。

認知症の人に対する態度尺度

- 1 認知症の人でも周りの人と仲よくする能力がある
- 2 普段の生活でもっと認知症の人と関わる機会があってもよい
- 3 認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せる
- 4 認知症の人でも地域活動に参加した方がよい
- 5 認知症の人は周りの人を困らせることが多い
- 6 認知症の人はわれわれと違う感情を持っている
- 7 認知症の人と喜びや楽しみを分かち合える
- 8 認知症の人とちゅうちょなく話せる

※ 網掛けの質問は逆転項目である。

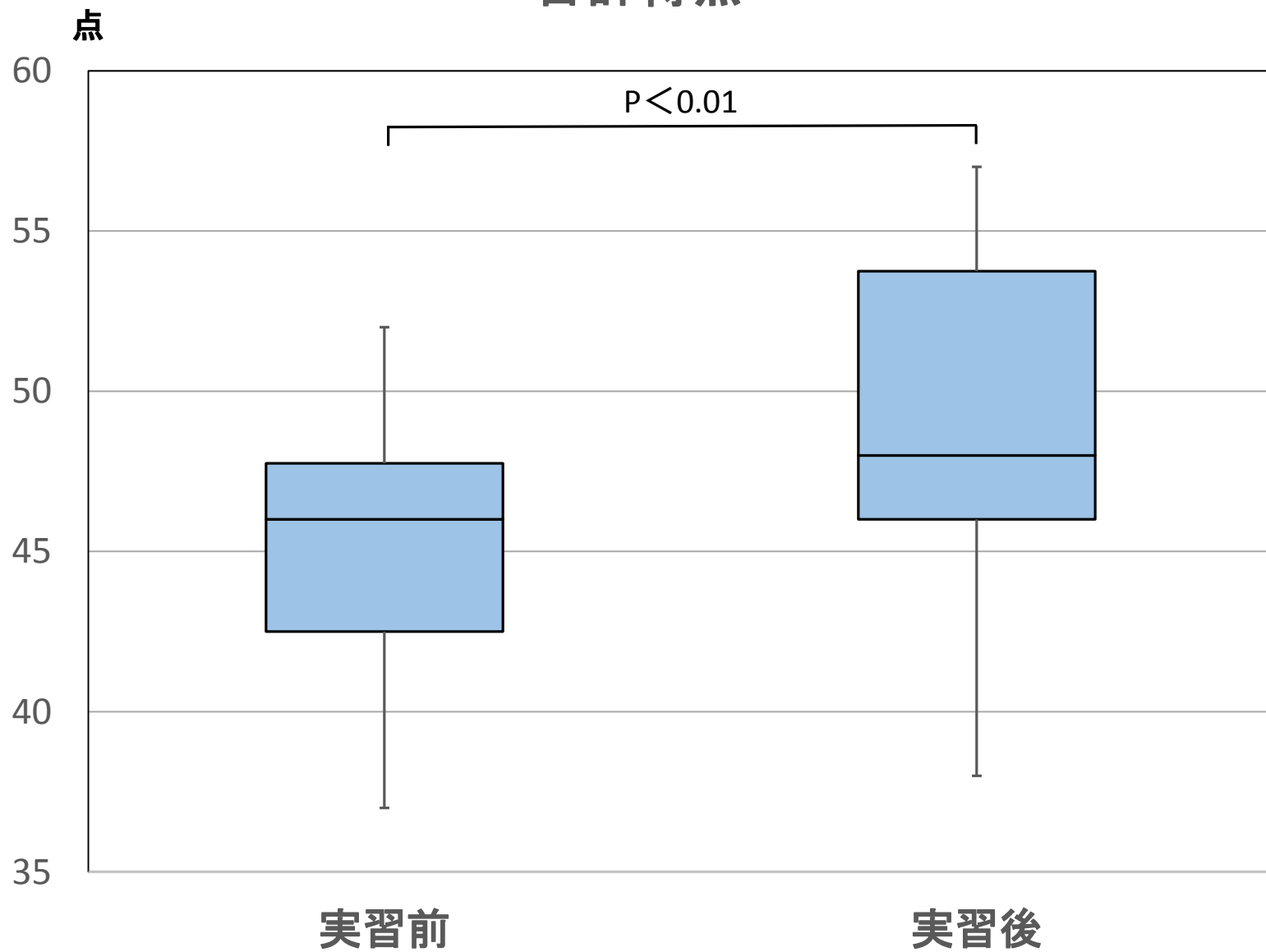
認知症の人に対する態度尺度

- 9 家族が認知症になったら、世間体や周囲の目が気になる
- 10 家族が認知症になったら、近所づきあいがしにくくなる
- 11 認知症の人が自分の家の隣に引っ越してきてもかまわない
- 12 認知症の人を支えるには、いろいろな人の力をかりるのがよい
- 13 認知症の人の行動は、理解できない
- 14 認知症の人はいつ何をするかわからない
- 15 認知症の人とは、できる限り関わりたくない

※ 網掛けの質問は逆転項目である。

結果

合計得点



考察①

今回の調査で、学生は臨床実習を行うことで、認知症の人に対する態度が肯定的な方向に変化することが確認できた。

金ら(2011)は、認知症の人との関わりの経験が認知症の人に対する拒否的態度を緩和すると述べている。

杉山ら(2014)は、認知症の人に対する良好な態度を形成するためには、治療の知識量を高めることの必要性を示唆している。

考察②

学生は3日間の臨床実習で、実習の到達目標である「対象者の全体像を捉える」ことを目指し、認知症の疾患および症状を学習し、対象者の思い(主訴)を理解するために、対象者の話しに耳を傾け、多くの関わる時間を必要とした。

臨床実習を通して、学生は認知症に関する知識を高め、認知症の方と関わる多くの経験をもったことにより、認知症の人に対する肯定的な態度を養うことができたと考える。